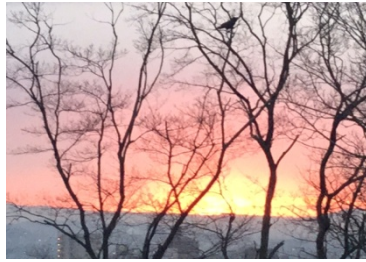


バレンタインデー

朝焼けの3枚の写真は、昨日13日に自宅前の階段から撮ったものだ。時間は午前6時45分頃。ほんの数分で太陽が昇り、東の空が変化する。曇りから雨の週末だが、美しい朝焼けが楽しめ嬉しいかぎりだ。

長年「UR賃貸」に沈滞しているが、6階から眺める朝焼けと夕焼けには大いに満足している。



さて、今日14日はバレンタインデーである。下の写真は、林京香さん（京ちゃん）と千陽さん（ちーちゃん）姉妹からもらったチョコレートだ。左はちーちゃん手づくりのチョコ、右は東京新宿・中村屋の「ウィスキーボンボン」。さっそく「ボンボン」を一つ口にした。おなかが「ボンボン」ではなく「ボンボン」してきた。仲よし京ちゃん姉妹に感謝、感謝である。

チョコレートをもらうなんて、何年ぶりだろう。嬉しさのあまり、「バレンタインデー物語」？を書いてみたくなった。

ずいぶん昔、名古屋市立女子短大に勤めていたころ、まだ若かったこともあり、たくさんのチョコをもらった。同僚とチョコ数を競いあったこともある。「チョコ」と多いと、誇らしげにほほ笑んだものだ。若き日の「甘い思い出」である。漫才で「冷蔵庫が怖い」といったネタがあった。これも古い話であるが。冷蔵庫には一杯のチョコがあり、開けるのも怖いといったネタだ。漫才のせいもあり、こんな「チョコ夢」を見たこともある。

歳をとるにつれ、チョコ数は減り続け、最近はもらうこともなくなった。久しぶりに、きょうちゃんとちーちゃん、合わせて「きょうち」からチョコをもらい、なんとも嬉しい「境地」なのだ。

もう一つ。大学の学期末の試験が以前は2月中旬にあった。ちょうどバレンタインデーの日に試験があると、試験開始時にこんなことを言ったものだ。「今日、カンニングすると〇〇〇〇〇〇〇〇」。問題に目を通しはじめた学生からは、冷たい視線が返ってきた。



(2016年2月14日)